

小ギク栽培情報

令和3年産

第5号（7月号）

近畿地方の梅雨明けの平年値は7月19日ごろとなっており、梅雨も終盤になってきました。この時期の大雨は注意が必要です。大雨の際、畝の肩近くまで水に浸かることがあるほ場では排水対策を行なってください。

また、梅雨明け後、急激な気温上昇や降雨が無い時期が続いた場合にはかん水が必要です。

【7～8月咲き小ギクの管理】

1. 発蕾と収穫時期について

7月15日頃の蕾の直径が6mm程度あれば、8月初旬～上旬の開花が見込めます（品種により差があります）。

<8月咲き品種の場合>

- ・蕾を肉眼で確認（直径3mm程度）してから19日～25日前後で収穫時期となります。
- ・発蕾後、気温30℃を超える高温が続くと開花が遅れることがあります。

⇒ 高温が続く場合の温度を下げる方法としては、かん水、日よけがあります。

2. 病害虫の防除について

早い品種は収穫の時期となっていますが、7月中旬分の防除がまだの方は、小ギク情報第4号および小ギク栽培研修会（6/16開催）資料の農薬ローテーション表を参考にしながら、最後の防除を行ってください。

3. 水管理について

- ・梅雨明け後、猛暑や夕立が無い日が続くようならかん水が必要です。マルチ栽培の場合、マルチを鎌などで切り、水が入りやすいようにしましょう。

畝間かん水ができるほ場では、夕方または早朝から水を入れ、全体に行きわたったらすぐに落水します。

⇒水を入れる量は畝の高さの1/2以上にならないよう注意しましょう。また、マルチはところどころめくるか、横に切り込みをいれましょう。

<強風・大雨への対策（事前）>

支柱を補強しネットをしっかりと張って、強風や大雨による倒伏を防ぎましょう。

- ・ネット位置・・・草丈の頂点から1/3程度
- ・ネットがゆるいと倒伏しやすくなります。ロープや強力なひもを通して引っ張るか、支柱を追加して補強しましょう。また、矢じりバンド等でネットと支柱を固定しましょう。

<強風・大雨への対策（事後）>

- ・雨が激しく降った後や長時間降り続いた後は停滞水の排水に努めてください。あらかじめ排水溝や畝間の除草を行うなど、水が流れやすいようにしておきましょう。
- ・半日以上冠水した場合は、根が弱ってしまい水を吸えない状態になっています。雨が止んだ後に急に晴天になると蒸散がはげしくなり萎れてしまいますので、寒冷紗等で3～4日遮光しましょう。萎れが治らない場合は根の回復に努めてください。酸素剤を施用したり、マルチを切るなどして根の周囲に空気が入るようにしましょう。
- ・倒伏してしまった場合は、できるだけ速やかに（茎が曲がる前に）修復し、土などの汚れを洗い落としてください。
- ・強風、大雨により株がゆすられたことから、葉が傷み病害が発生しやすくなっています。追加の病害防除を実施してください(ダコニール1000散布)。
- ・雨天後に収穫した花については、風雨による花卉や葉の傷みは高温、蒸れにより症状が重くなります。収穫後の水揚げや調製作業時は、通常よりばらけさせて取り扱うようにしてください。収穫時に葉や花が濡れているときは扇風機などで乾かし、蒸れを防いでください。

4. 収穫適期（切り前）について

下の写真を参考に、遅れる（開きすぎになる）ことがないように収穫してください。



写真 小ギクの切り前【参考】

この写真の蕾よりも開いてからの収穫では「開きすぎ」となり商品価値が下がってしまいます。

【9～10月咲き小ギクの管理】

1. 病害虫の防除について

ハダニ類・アザミウマ類・ヨトウ類の発生に注意しましょう！

- ・7～8月咲き品種の収穫、出荷が始まると、どうしても9月咲き以降の小ギクのほ場に入る機会が減少しがちになります。
- ・しかし、ハダニ類、アザミウマ類、ヨトウ類、オオタバコガなどが多発しやすい時期でもありますので、定期的な薬剤散布は続けるようにしてください。

2. フラワーネットによる倒伏防止

- ・9月咲き以降の小ギクは、台風などにより豪雨、強風に遭うリスクが7～8月咲きに比べて高くなります。
- ・今のうちに、畝の両端の親支柱や中間支柱がしっかりと立っているか（ぐらついていないか）、フラワーネットはピンと張っているかを確認し、必要に応じて、支柱の立て直しや中間の支柱の追加をして補強してください。

作業中、熱中症にならないよう、注意してください。

- ・暑い昼間は、できるだけほ場での作業は控えてください。
- ・作業に当たっては、塩1～2gを水1Lに溶かした塩水やスポーツ飲料等を準備してください。
- ・日陰で20分おきにコップ1杯給水してください。
また、衣服を緩めて放熱してください。
- ・防除などマスクが必要な作業では、体に熱がこもり、のどの渇きが感じにくいので特に注意してください。
- ・コロナウイルス対策が必要な情勢ではありますが、屋外やハウスで行う通常の農作業では、人との距離が2m以上確保できる場合はマスクを外してください。

表 7月下旬～8月中旬の防除ローテーションの例（9～10月咲き小ギク）

（令和3年7月1日時点での登録のもの）

時期	対象病害虫	薬剤名	使用量・倍率	回数	RAC コード
7月下旬	白さび病 褐斑病 黒斑病	ダコニール 1000	1,000 倍	6 回	F:M5
	アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000 倍 2,000 倍	5 回	I:4A
8月上旬	さび病	ジマンダイセン水和剤	400～600 倍	8 回	F:M3
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 ヨトウムシ類 オオタバコガ	アフアーム乳剤	1,000～2,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍	5 回	I:6
8月中旬	白さび病 アブラムシ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類	ハチハチ乳剤	1,000 倍	4 回	I:21A F:39
	ハダニ類	ダニサラバフロアブル	1,000 倍	2 回	I:25A
★病害虫発生時 （発生を確認した病害虫に合わせて、右欄の剤を追加散布してください。）	うどんこ病 白さび病 灰色かび病	アフエットフロアブル	2,000 倍	3 回	F:7
	褐斑病 黒斑病 白さび病	ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍 2,000～3,000 倍 1,000 倍	6 回	F:1
	アザミウマ類 ハダニ類 オオタバコガ ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	2,000 倍	2 回	I:30
	ヨトウムシ類	ノーモルト乳剤	2,000 倍	2 回	I:15
	アブラムシ類 コナジラミ類	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	4 回	I:9B
	ハダニ類	カネマイトフロアブル	1,000～1,500 倍	1 回	I:20B
	ナミハダニ	マイトコーネフロアブル	1,000 倍	1 回	I:20D

※農薬の使用に当たっては、必ず薬剤容器ラベルの記載事項を確認し、適正に使用してください。